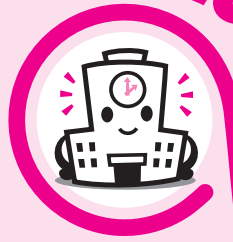


つながる



学校と家庭の学び

小中一貫の「学びの架け橋」で 家庭学習の意欲と習慣を育む

兵庫県姫路市立四郷小学校・四郷中学校

姫路市立四郷小学校は、同じ地区にある同市立四郷中学校と合同で、子どもの学習意欲を伸ばす取り組みに力を入れている。小学1年生から中学3年生まで9学年分の家庭学習をまとめた「学びの架け橋」を毎月発行し、学期末に算数と国語の基礎力を養う小テストを実施するなど、きめ細かい取り組みを行っている。

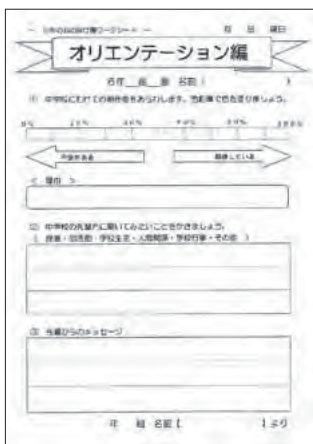
中学生との交流を通して
小学生に目標を示す

姫路市立四郷小学校と同市立四郷中学校は隣接した敷地に建ち、また1小1中であることから、以前から教師同士が情報交換をしてきた。2010年度には行事や学習活動などにも合同で取り組み始め、14年10月の「小中一貫教育全国サミット」では共同研究発表を行う。両校の連携について、四郷小学校の西田耕太郎校長は次のように話す。

人間関係の中で育つため、『運動ではあの子にかなわない』など、努力するのを諦める様子が見られました。中学校と交流を深めれば、小学生は中学生を目標とし、中学生は小学生の手本になろうと、互いに頑張るはず。子どもが自分を変えるきっかけになればと考えています。6年生と中学生との交流活動の1つ「心の架け橋」は、授業などを見学する1日中学校体験（11月）、部活動体験（11月・2月）などを、9月の運動会以降に5回行う。毎回の活動後には、6年生がワークシート

（図1）に活動の感想のほか、中学校生活への期待や不安などを書く。これを担当が回収して中学校に渡し、中学生にコメントを書いてもらう。組み合わせは回ごとに異なるが、いつも6年生1人が返事を書くマンツーマン形式だ。6年生には中学校での目標を見付けてほしいと、四郷小学校・小中一貫

図1 「心の架け橋」ワークシート（オリエンテーション編）



「心の架け橋」の第1回（9月）の「オリエンテーション」では、担当が中学校の授業や部活動について話し、子どもがワークシートに中学校に対して抱く期待度とその理由、中学生に聞いてみたいことを記入する

*同校の資料をそのまま掲載

教育担当の上野裕哉先生は話す。「中学校で体験して抱いた疑問に中学生が答えてくれれば、6年生は中学校生活をより具体的にイメージで

きるようになります。毎年、運動会という大行事が終わると気が緩んでしまう6年生がいますが、中学校進学後の目標を持って、最後までしっかり小学校生活を送ることもつながらるはずです」

子どもに必要な家庭学習内容を保護者に具体的に伝える

学習習慣の定着にも、小・中学校が連携して力を入れる。四郷中学校の学習目標である「自分の弱点を把握し、自分で計画を立てて学習できる」ことを実現できるように、四郷小学校では発達段階に応じて学習目標を次のように定めている。

■**低学年**…学習道具の準備を徹底できる。

■**中学年**…宿題などの提出物をきちんと出せる。

■**高学年**…宿題以外の自主学習を習慣化できる。

月1回発行する家庭学習通信「学びの架け橋」(P.30図2)には、家庭で重点的に取り組んでほしい学習内容を小学1年生〜中学3年生まで1枚に記載し、これを参考にして子どもに学習を促すよう、保護者に呼びかけている。

兵庫県姫路市立四郷小学校

◎1947(昭和21)年、四郷国民学校を改称して開校。兵庫県の南西部に位置する。姫路市立四郷中学校と小中一貫教育を推進。2014年10月30・31日の2日間にわたって行われる「小中一貫教育全国サミット in 姫路」(詳細は下記URL)で研究発表を行う。
http://www.city.himeji.lg.jp/s110/2212766/_32185.html

校長 西田耕太郎先生
 児童数 305人
 学級数 14学級(うち特別支援学級2)
 所在地 〒671-0246 兵庫県姫路市四郷町坂元227
 TEL 079-252-3636
 URL <http://www.himeji-hyg.ed.jp/index.cfm/20,0,165.html>



姫路市立四郷小学校校長

西田耕太郎

にしだ・こうたろう

「困難にくじけない強い心を持つ、心の体力を備えた子どもを育てていきたい」



姫路市立四郷小学校教頭

引地良典

ひきじ・よし のり

「楽しく学校生活を送り、何事にも一生懸命に取り組む子どもを育てたい」



姫路市立四郷小学校

上野裕哉

うえの・ひろや

小中一貫教育担当。「子どもの力を伸ばすことに、全力で取り組んでいきたい」



姫路市立四郷中学校校長

長谷川貴久

はせがわ・たかひさ

「子どもを中心に据え、子どものことを常に最優先する学校運営を続けていきたい」



姫路市立四郷中学校

嶋田 聡

しまだ・あきら

小中一貫教育担当。「子どもをしっかり見取り、成長を支えていきたい」

「今までは、『家庭でどのような学習をさせればよいか分からない』という声がよく聞かれました。そこで、保護者が子どもに声を掛けやすくなるように、家庭で必要な学習内容を授業進度に合わせてこまめに伝えながら、毎月具体的に示していただきます。9学年分を一覧で見ること、子どもがこの先どのような学習をすることになるのかも見通せると、保護者からも好評です」(上野先生)

各学期末には、9学年一斉に算数と国語の小テスト「SKY(*)」に取り組む。算数は計算問題、国語は漢字の書き取り問題で、いずれも、その学期の学習内容10問と、小学2年生以上は前学年での学習内容10問を加えた20問から成る。この取り組み

みの初年度に両校の教師が話し合い、9年間で必要とされる学力を段階的にしっかり身に付けられるように、各学年・学期で最重要となる内容を厳選し作成した。子どもの学力を経年比較できるように、毎年同じ問題を出す。答えは、担任が採点后、保護者会で保護者に返却する。

「先生方には、子どもがつまづいている箇所と対策の仕方を保護者に丁寧に説明してほしいと伝えていきます。子どもに必要な学習がはっきり分ければ、保護者は長期休業中も子どもに声を掛けやすくなると考えています」(西田校長)

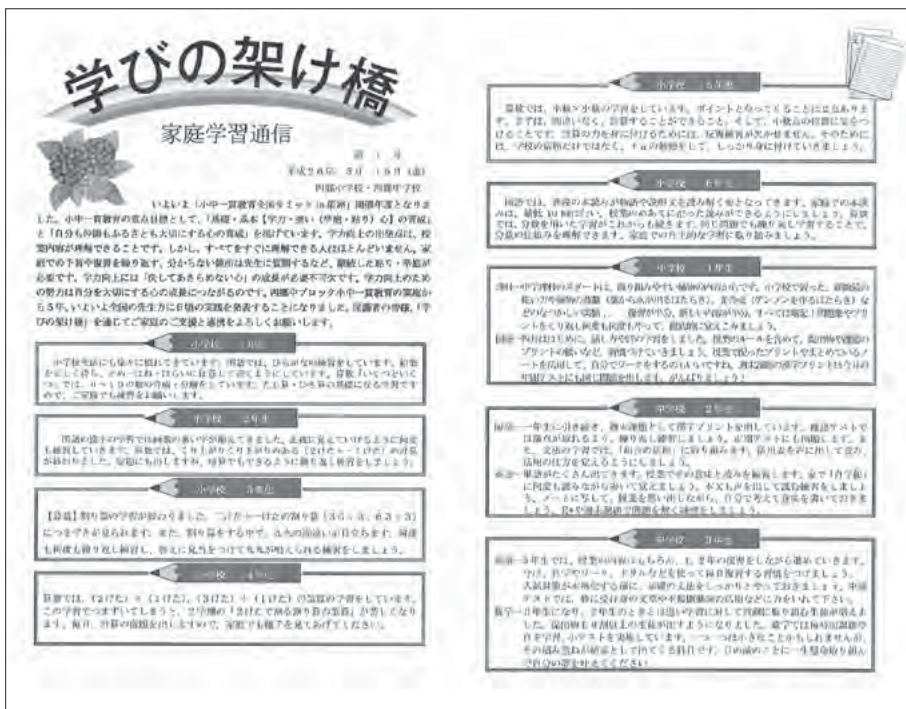
14年度には、子どもが家庭で落ちていて学習する環境を整えられるように「No! メディア・ウィーク」

も設けた。これは、子どもがテレビやゲームなどのメディアの使用を控える期間で、年5回、四郷中学校の定期考査前の1週間を充てる。期間中は毎日、子どもがテレビの視聴時間などをチェックカード(P.30図3)に書き、期間終了後に担任に提出する。取り組みの意義を、四郷小学校の引地良典教頭は次のように話す。

「友だちと一緒にに行く無料通信アプリケーションなど、1人ではやめづらいメディアもあります。そこで、学校が家庭と一体となり、メディアから離れることを子ども全員に促せるような体制をつくりました。更に、中学校と一緒に取り組むことで、兄弟がいる家庭でも効果が上がると期待しています」

*「四郷・計算・夢を叶えよう」、「四郷・漢字・夢を叶えよう」の頭文字を取って「SKY」と命名

図2



毎月、学年団で話し合い、記載する家庭学習内容を1~2教科分決める。積み上げが特に重要な算数(数学)が含まれることが多い。今、授業で何を学び、どのような課題があるかをタイムリーに示し、だからこそ家庭でこういう学習に取り組んでほしいと呼び掛ける学年が目立つ。継続が重要なため、1学年の割り当てを少なくして、教師の負担も減らしている。年間の「学びの架け橋」をファイリングすると、実態に応じたきめ細やかな学習の手引きとなる

*同校の資料をイラストを変更して掲載

義務教育9年間を通して
子どもの生きる力を伸ばしたい

小中学校が連携した活動により、

保護者からは、「ルールを守って生活にメリハリが付いた」「空いた時間を家庭での交流や勉強に使えた」などの声が上がっている。

子どもの学習意欲は高まっている。

「算数が苦手でも、計算の『SKY』では満点を取ることができ、『自分もやればできる』と自信を付ける子どももいます。他教科の学習意欲にもつながっています」(引地教頭)

目標を持って中学校に進もうとする6年生も増えている。「心の架け

【No! メディア・ウィーク】チェックカード(6年生)

	19日(水)	20日(木)	21日(金)	22日(土)	23日(日)	24日(月)	25日(火)	合計(日)
テレビ・ビデオを見た時間	0分	44分	34分	0分	30分	40分	6分	
ゲームをした時間	0分	0分	0分	0分	0分	0分	0分	
パソコン・携帯・スマホを使った時間	0分	0分	0分	6分	0分	0分	9分	
1日の合計	0分	44分	34分	0分	30分	40分	6分	

チェックカードは、子どもが「テレビ・ビデオを見た時間」「ゲームをした時間」「パソコン・携帯・スマホを使った時間」「1日の合計」「この1週間をふりかえって」を書き、担任に提出。担任は内容に目を通し、判を押してから子どもに返却する

*同校の資料をイラストを削除して掲載

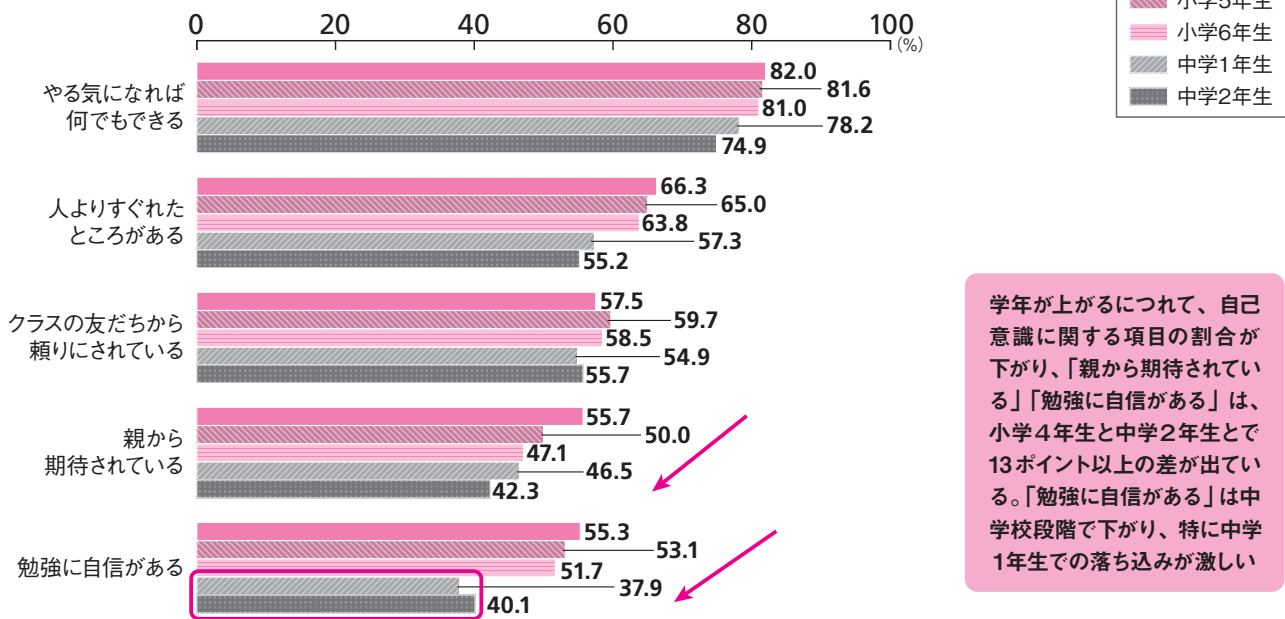
橋」のワークシートに書く、中学校への期待度のクラス平均値は、13年9月では60%に満たなかったが、翌年2月にはほぼ80%にまで伸びた。「中学生と身近に接するうちに、中学校で自分のしたいことが固まってくるようです。『この部活動を頑張りたい』など、具体的な目標を話

子どもも増えました」(上野先生) 中学校入学後は生徒間の一体感が強まっていると、四郷中学校・小中一貫教育担当の嶋田聡先生は話す。「近年の新入生を見てみると、つまり、友達を励ますなど、全員で頑張ろうという姿勢を感じます。小学校時代に一人ひとりが学習に自信を持てるようになり、気持ち1つで自分が変われることを実感したからこその変化だと思えます」 教師の意識も変化していると、四郷中学校の長谷川貴久校長は話す。「両校の先生方が、子どもの具体的な姿をイメージして中学3年生までにどのような力を育むかを考え、指導を検討するようになったと感じます。どの先生からも新たな取り組みのアイデアがよく出されるようになったのも、そのためでしょう」 西田校長は、これからも小中連携に力を入れていきたいと話す。「本校の小中一貫教育の取り組みは始まったばかりですが、先生方の視線はまとまってきています。今後『四郷はひとつ』を合い言葉に四郷中学校と力を合わせ、義務教育9年間を通して子どもの生きる力を伸ばしていきたいと考えています」



中学1年生で勉強への自信が急激に下がる

自己意識(回答：全国の小学4年生～中学2年生)

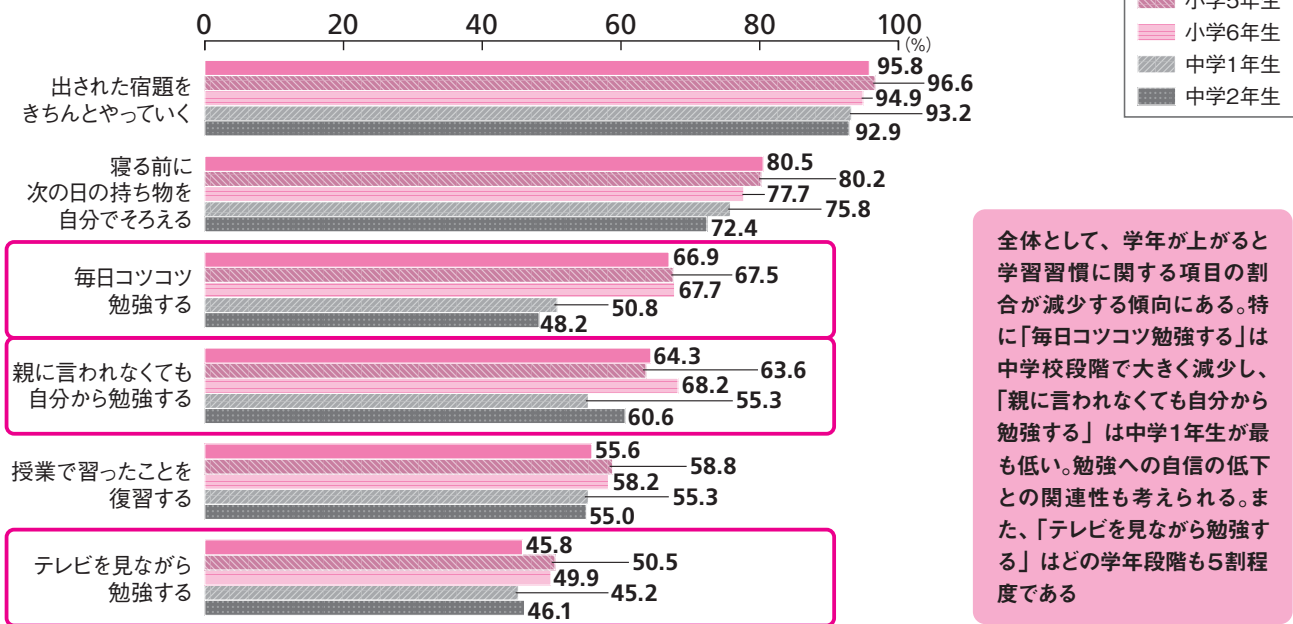


学年が上がるにつれて、自己意識に関する項目の割合が下がり、「親から期待されている」「勉強に自信がある」は、小学4年生と中学2年生とで13ポイント以上の差が出ている。「勉強に自信がある」は中学校段階で下がり、特に中学1年生での落ち込みが激しい

注1) 数値は「とてもあてはまる」と「まああてはまる」の合計 注2) 5項目を抜粋

「毎日コツコツ勉強する」は中学校段階で大きく下がる

家での学習習慣(回答：全国の小学4年生～中学2年生)



全体として、学年が上がると学習習慣に関する項目の割合が減少する傾向にある。特に「毎日コツコツ勉強する」は中学校段階で大きく減少し、「親に言われなくても自分から勉強する」は中学1年生が最も低い。勉強への自信の低下との関連性も考えられる。また、「テレビを見ながら勉強する」はどの学年段階も5割程度である

注1) 数値は「よくある」と「ときどきある」の合計 注2) 小学生と中学生の両方を調査した6項目を抜粋

出典：ベネッセ教育総合研究所「小中学生の学びに関する実態調査」(2014)

調査時期は、2014年2月～3月、調査対象は、全国の小学4年生～中学2年生の子どもの保護者各5,409人(小学4年生1,217人、5年生1,184人、6年生1,049人、中学1年生933人、2年生1,026人)、調査方法は郵送法による自記式質問紙調査



上記の関連データはコチラ!
<http://berd.benesse.jp/>
*「調査・教育データ」コーナーをご覧ください

データの掲載は2014年10月上旬を予定